

2026.1.1
vol.103

かわら版

ご自由にお持ち帰り下さい

もっといきいき健康に！ 地域がつながる医療と介護を目指して



絵/ザ・キャビンカンパニー

Contents | 年頭所感 2026 …… 2 | 新しい年を迎えるにあたって …… 3 | みえ病院新副看護部長ご挨拶 …… 3
| 樺~たすき~ 社会福祉法人みずほ厚生センター 理事長 大塚 恭弘 氏 …… 4 | インフォメーション …… 4

年頭所感2026

帰巖会 理事長 首藤 治

新年あけましておめでとうござい
ます。寒さがいちだんと深まる季節
となりましたが、皆さまいかがお過
ごしでしょうか。昨年一年を振り
返って、世の中ではAIの発展に大
きな期待が寄せられ、時に熱狂に近
い盛り上がりを見せています。また
その裏ではAIバブル崩壊への不安
と恐れが静かに、そして確実にその
影を増してきています。そうした中
で日米の株価は史上最高値を記録す
るといふ現象が起こり、経済面では
大きな期待と不安の交錯する新年の
幕開けとなりました。一方、昨年は
当法人にとって大きな転機となる一
年でした。特に、大分市の大嶋医院
で昨年10月より入院医療の本格稼働
が始まり、外来、検査、リハビリ、
在宅医療が一つの流れとしてつな
がり、大分市大南地域においてこれま
で以上に「身近で頼れる医療」を提
供できる新たな体制が整ってきまし
た。加えて、みえ病院・臼杵病院で
も病床編成の刷新やリハビリスタッ
フの増強など、地道でありながら確
かな前進を積み重ねることができま
した。なかでも臼杵病院の回復期リ
ハビリテーション病棟の開設は、臼
杵・津久見地域で唯一のリハビリ病

棟として、患者さんが住み慣れた地
域の近くでリハビリを継続できる体
制を築いた大きな一歩となりました。
そしてみえ病院においては地域
包括医療病棟の開設によって、地域
の高齢者患者さんの病状急変に対応
し、入院時からの早期リハビリサー
ビスを取り入れる中で入院から退
院、さらに在宅療養に向けての切れ
目のない医療・リハビリ・介護サー
ビスを提供できる体制作りを力を入
れてきています。

医療は、必要になるその瞬間を選
べません。夜間に体調を崩したと
き、家族が心配な症状を訴えたと
き、退院後の生活が不安なとき、誰
もが「どうしたらよいのか分からな
い」という気持ちを抱えます。その
とき、近くに相談できる場所があ
る“ここに来ればなんとかなる”
と思っていただけのこと。それこそ
が、私たち帰巖会が存在する理由で
す。

一方で、地域を取り巻く環境は確
実に変化しています。豊後大野市で
は今後二十年で約三〇%の人口減少
が見込まれ、臼杵市も同様の傾向で
す。高齢化により医療や介護の需要
は増える一方で、働き手は減少して

いきます。しかし、悲観しすぎる必
要はありません。人口が減るからこ
そ、医療機関が果たすべき役割はむ
しろ明確になります。「どの地域で、
どの程度の医療・リハビリ・介護
サービスが必要か」を冷静に見極
め、無駄をなくし、必要な部分を強
化する視点がこれからの地域医療に
は欠かせません。その一環として、
私たちは高齢化の進む大分市大南地
域において、地域で外来、リハビリ、
入院、在宅が切れ目なく連携し、暮
らしを支える拠点をつくること。そ
こで大嶋医院が「地域の生活支援セ
ンター」に近い存在となることを目
指しています。どのような状況でも
地域の生活を支え、医療・リハビ
リ・介護サービスを維持するため
の、帰巖会の次の一歩です。

には、「最後はなんとかする力」が
あります。これは精神論ではなく、
皆さま一人ひとりの努力が証明して
きた事実です。

地域の皆さまに「ここに住み続け
たい」と思っていただけの医療、介
護、リハビリを、今年も誠実に、力
強く進めてまいります。体調に不安
があれば、どうか遠慮なくご相談く
ださい。私たちはこれからも皆さま
の生活に寄り添い、支え続けてまい
ります。

二〇二六年は、帰巖会にとって
「実行の年」になります。これまで
描いてきた計画を、いよいよ形にし
ていく段階に入ります。全国的に赤
字病院が増え続ける中で注目される
2026年診療報酬改定や高齢者、
患者負担を強いる社会医療制度の変
化など、医療界を取り巻く状況は厳
しいものがありますが、これまで
数々の困難を乗り越えてきた私たち

帰巖会は、これからも地域の皆さ
まの人生に寄り添う医療法人であり
続けたいと願っています。病気のと
きだけでなく、元気な日々を守る存
在として、困ったときには気軽に相
談でき、必要なときには確かな医
療・介護サービスを提供できる身近
なパートナーでありたいと思ってい
ます。今年も皆さまの暮らしを支
え、安心につながる医療・リハビ
リ・介護サービスを丁寧に届けてま
いります。

本年もどうぞよろしくお願い申し
上げます。

新しい年を迎えるにあたって

人手不足が顕在化

厚生労働省が昨年12月19日に発表した「介護サービス施設・事業所調査」の結果によると、2024（令和6）年10月1日時点の介護職員数は212万6,227人で前年比487人増加している。2023（令和5）年に介護職員数が初めて減少（約2.8万人の減少）したのでこの傾向に一応歯止めがかかったようである。

こうした動きを受けてか、身近な地域では、職員満足度を高め少しでも離職を防ぐとサービス提供日を減らし働きやすさを整える事業所が現れたり、補助金を背景に大幅な処遇改善を実現する事業所もあり、我々の世界も格差が生じている。

そんな中、帰巖会は良いでしょうと言われることもあるが、民間で自立した経営が求められる我々に余裕などなく常に課題に追われている。

今年の医療・介護報酬改定

2026（令和8）年度の診療報酬改定率は3.09%、全体プラス改定は12年ぶりのこと。2014（平成26）年当時、677円だった大分県最低賃金も今月から1,035円になり152%もアップしているが、診療報酬は2年置きに0.1%、▲0.84%、▲1.19%、▲0.46%、▲0.94%、▲0.12%の改定率だったので当然経営は厳しくなる。介護報酬も今回2.03%で2009年以来17年ぶりの高い改定率となった。ある日、医療介護系の専門サイトを見

ていると「この程度の改定では状況が改善しない」とか「政府は経営の実態を分かっていない」など辛口のコメントばかり目立っていた。

何でもかんでも批判する精神に嫌気が差し、プラス改定でも批判しマイナス改定だとさらに批判を強めるこのサイトに辟易した、と投稿したら数十分で数十件のコメントが寄せられ炎上した。想定内の反応だが5人はいいねボタンを押してくれていた。

人に優しく、地域に貢献していきたい

私が豊後大野市に住み始め8年目を迎える。

すっかりこの町での暮らしに慣れスパーで買い物したり美味しいものを食べ楽しく暮らしている。この業界の仕事も30年を超え医療介護のサービス向上や人材育成などいろいろんなことに挑戦してきた。

専門職にも色々な方がいて同じような熱量を持っているわけでなく、時に忸怩たる想いもしたが、今の病院や介護事業所で感じる「優しさ」に触れる度にうれしくなる。

医療の質や生活の質、根拠ある医療・介護などなど、いろいろ言われるが、やはり優しさが大切だとしみじみ思う。

もちろん、そうではないこともあるが、時にはお叱りを受けることもあるが、帰巖会は人に優しい病院や介護施設・介護事業所でありたいと思っている。

人手不足を理由に処遇改善や働き易さが議論されることは悪くないが、優先順

帰巖会 常務理事 船田 茂

位を間違わないようにしなければならぬ。

その為にも、管理者は処遇や働く環境改善を常に考え現状を把握すること、関係者で情報を共有し諸問題に早期発見・早期対応し、後手を踏まないマネジメントを絶えず繰り返していかなければならない。その上で、人に優しく地域に貢献できる組織を帰巖会全員で創っていきたい。



みえ病院

新副看護部長ご挨拶

この度、副看護部長になりました羽田野恵美と申します。

当院は地域の高齢者救急を担い、医療・看護・介護の職員が連携し、入院から退院後まで一貫した支援ができることを強みとしています。看護では、身体の治療だけでなく、不安や孤独といった心のケアも欠かせません。その方が大切にしていることや生活背景を尊重し、ご家族への支援、多職種との連携を整えることが重要だと考えています。

地域の皆さまが住み慣れた場所で安心して暮らし続けられるよう、患者さん・利用者さん、ご家族に寄り添った看護を提供できる環境づくりに努めてまいります。

また私が大切にしていきたいことは「個人を尊重し、やさしく思いやりのある看護・介護の提供」と「仲間を大切にするチームづくり」です。働く職員がお互いを尊重し合い、それぞれの力を発揮できる職場づくりを目指してまいります。

これからも地域の皆さまへ心のもった看護が提供できるよう精進してまいります。

今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



人から人へ絆で繋がっていく



社会福祉法人みずほ厚生センター

理事長 大塚 恭弘 氏

臼杵市江無田地区の高台に位置する、みずほ厚生センター。臼杵市を中心に障害福祉と高齢者福祉を展開する法人の理事長である大塚恭弘さんをご紹介します。

【両親が設立したみずほ学園】

別府市生まれ。1965年（昭和40年）臼杵市熊崎に知的障害や発達障害のある方の生活や就労支援を行う施設「障害児入所施設みずほ学園」をご両親が設立。その頃より臼杵市に居住し高校卒業まで過ごされます。福祉の場を身近に感じながらも当時はあまり興味がなかったそうです。それでも自然とその道を選択され関東の淑徳大学（千葉市）へ進学されました。

【障害福祉から高齢者福祉まで】

卒業後は公益財団法人鉄道弘済会総合福祉センター弘済学園（神奈川県）に就職されます。知的障害のある方などを対象にした療育・教育・就労支援

を行う法人で5年間勤務すると共に日本の福祉先駆者である方々の指導を受けたそうです。1980年（昭和55年）地元臼杵市で新規事業を始める事になり帰郷。1982年（昭和57年）「精神薄弱者授産施設あらかしの園」を設立をされました。また地域のニーズに合わせ高齢者福祉に取り組む事になります。異分野である高齢者福祉を1から学び、様々な場所へ見学、教を請い、人脈を広げ「特別養護老人ホーム四季の郷」を設立しました。みずほ厚生センターの方針である「地域と一緒に支えていきます」には人を大切に作る心と地域とともに歩む意思が感じられます。

【想いを繋いでいく】

趣味はスキューバダイビングやバイクを走らせることだそうです。自慢のサイドカー付きバイクに乗る姿は颯爽とされています。時には愛犬を乗せることもあるそうです。

早くから次世代への引き継ぎを意識

されていた大塚さん。これまでに積み上げ培った信頼や信用に加え、みずほの核である創業者の想いを「暖簾分け」と表し何よりも大切に引き継いでいきたいとお話いただきました。

（取材 地域担当室 木村）



社会福祉法人 みずほ厚生センター
〒875-0023
大分県臼杵市江無田1119番地の5
電話：0972-64-0177
FAX：0972-63-1300
E-mail：infomizuho@mizuhokousei.com

大嶋医院に新しい居宅介護支援事業所が誕生します！

このたび法人4つ目の居宅介護支援事業所「コミュニティケアセンター大南」が開設しました。最初はケアマネジャ1人体制のスタートとなりますが、大嶋医院に通院される患者さんのみならず、地域の皆様にも広くご利用いただける事業所を目指して

います。地域の介護等事業所との連携をさらに強化し、幅広く居宅介護支援を展開していくことで、地域に根ざした安心の支援体制を築いていきます。

連絡先

☎097-579-6700



豊後大野エリア



帰巖会みえ病院
〒879-7111
豊後大野市三重町赤嶺1250番地1
TEL：0974-22-2222



介護老人保健施設 泉の里
〒879-7111
大分県豊後大野市三重町赤嶺1254番地1
TEL：0974-22-7885



ケアホーム青いみちIKI本館
〒879-7111
大分県豊後大野市三重町赤嶺1259番地
TEL：0974-26-4170



ケアホーム青いみち
IKIおれんじ館
〒879-7111
大分県豊後大野市三重町赤嶺1259番地
TEL：0974-22-0102



あさじ町クリニック
〒879-6222
大分県豊後大野市朝地町朝地906番地7
TEL：0974-64-1234



清川巡回診療所
〒879-6903
大分県豊後大野市清川町砂田1877番地3
TEL：0974-35-3561

臼杵・大分エリア



臼杵病院
〒875-0023
臼杵市江無田1154番地1
TEL：0972-83-8100



ケアホーム竹あかり
〒875-0023
臼杵市江無田1154番地1
TEL：0972-83-8110



大嶋医院
〒879-7501
大分市竹中2666番地
TEL：097-597-0015